



みやプロ成果報告 子どもの健全育成チーム

子ども

おとな

火起こし×プログラミング

おやこで自然学びMIXプログラム



目次

Table of Contents

01

イベント開催のきっかけ-現状把握-

02

課題と取り組み

03

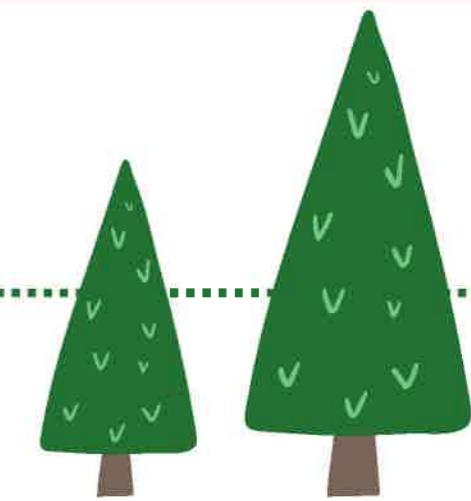
イベント当日

04

取り組みから見えたこと

05

さいごに



01

イベント開催のきっかけ - 現状把握 -



01

わたしたちの想い(ゴールイメージ)

子どもたちが

好き、楽しいを実現できる社会

未来社会を担う子どもたち。

自然体験など様々な活動をすることで、新しい「モノ」・「ヒト」と出会い、生き方の選択肢が増える。

自分の本当に好きなこと、楽しいことができる社会を実現したい。

大人が

子育てを「楽しい」「幸せ」と感じられる社会



01

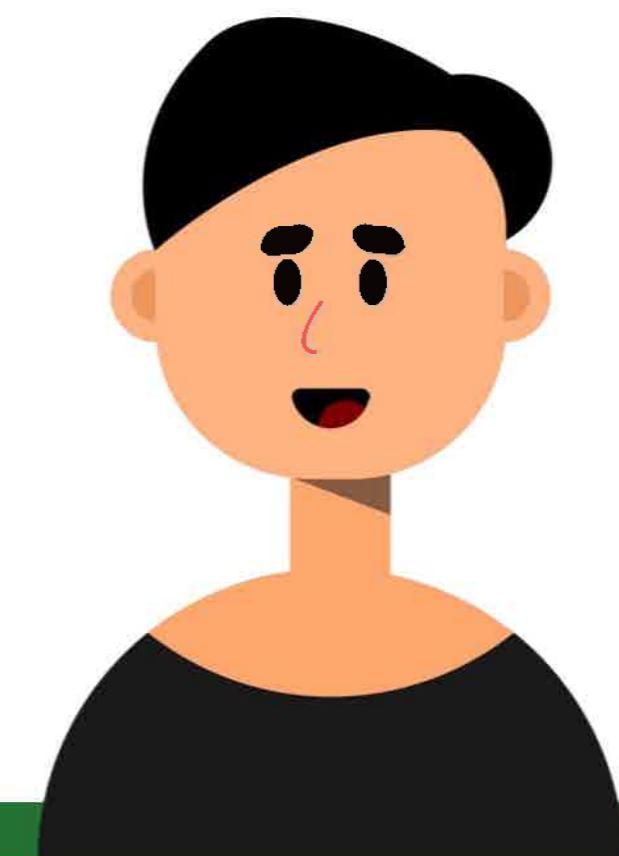
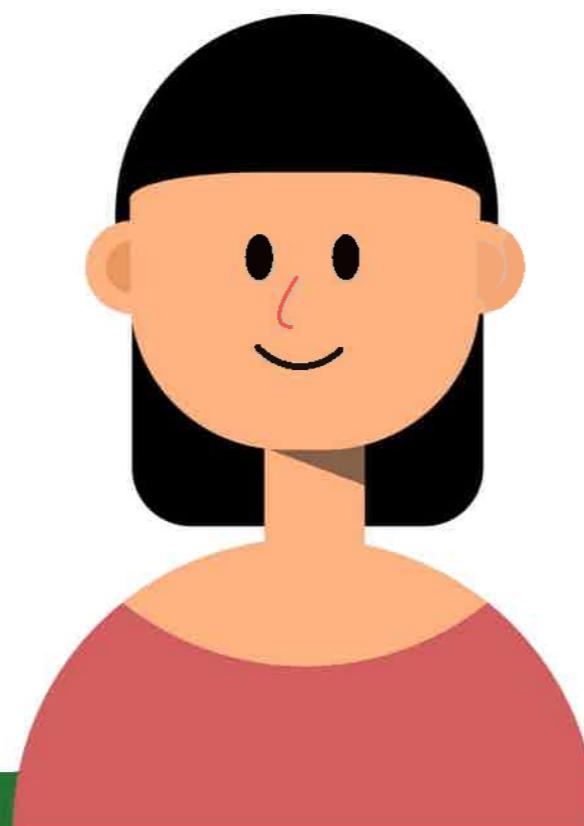
わたしたちが感じている課題

大人・子どもに関係なく
「体験」は重要。
しかし共働きやひとり親
の増加、科学技術の急速
な発展で**体験機会は減少**

子どもが好きなことを見
つけチャレンジできるよ
う習いごとはしているが
**待ち時間や送迎時間の拘
束が負担**

大人が許容できる範囲で
の選択になり、**大人の
「無理」が子どもの「無
理」**に。子どもがやりた
いことを選択できない

学校で**教わったことが実
際どのように使われてい
るか**、教わったことを組
み立てると何ができるか
を**知る機会がない**



01

現在の取り組み

地域団体等

野外教育活動(とちぎYMCA)
自然体験アクティビティプログラム(NAOC森のようちえん)
トヨタ白川郷自然学校(トヨタ自動車株式会社)
キャンプ指導者の養成(栃木県キャンプ協会)



学校

勤労体験やボランティア活動などの社会体験学習を行う
「宮っこチャレンジウィーク」



行政

①冒険活動センター主催

自然の中での活動を体験できる「ちびっこキャンプ」
「家族ふれあいデイキャンプ」

②生涯学習センター主催

学校や家庭ではできない体験学習等を実施する
「生涯学習講座（工作、アウトドア、タップダンス等）」

③人材かがやきセンター主催

体験活動の指導法を学べる「子どもの体験活動サポーター講座」



02

課題と取り組み

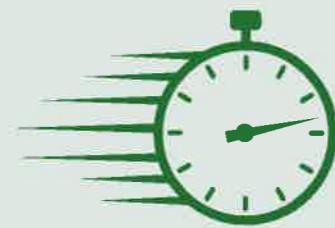


02

体験活動に参加できない理由(課題)とその対応

case01

時間がない
面倒くさい



- 待合室に遊び場やワークスペースを設置し兄弟や親が待ち時間に有意義に時間を活用できる仕組み
- 「親子で楽しめる」「親も学べる」など親も参加したいと思うような価値のある体験内容

case02

親の知識不足
自然が近くにない
日程があわない



場所や知識などにとらわれず、家庭でも手軽・気軽にできる簡単な内容の体験

case03

参加費が高い



誰もが体験できるよう学校教育での体験活動の充実や体験活動費の支援(補助金)



02

課題解決に向けた私たちの取り組み

おやこの学び場 (親も学べる)

子どもは火起こし体験

親は子どもと離れて、子どもたちが学校で
学ぶプログラミングを体験



おやこの交流の場 (おやこで楽しめる)

おやこそれぞれの体験後に、子どもたちが
起こした火を使っておやつ（スモア）作り



価値を見出す

03

イベント当日



03

アイスブレイクでコミュニケーション

大谷資料館の東側に隣接している
レジャー施設『^{カブル}cobble』にて開催

大人も子どもも一緒に、自己紹介がてら
アイスブレイクでコミュニケーション。
遊びながらあっという間に子どもたちは
打ち解けていた。



03

子どもは火起こし×大人はプログラミング 体験

はじめての火起こし

子どもたちは薪をくべるところからスタート。
火はマッチを使用。1人1回マッチに火を
点けたことで初めてマッチを触った子もいた。



みんなでプログラミング

小学校教育が始まったプログラミング。
ほとんどの親が初めてだったにも関わらず、
楽しそうに体験してくれた。

03

おやこ一緒に体験活動

おやこ交流 (おやこで楽しめる)

子どもたちが起こした火でマシュマロを
焼き、クラッカーに挟んでスモアを作成。
初めての経験にみんな大喜び。



03

イベント実績

約30人が参加！

大人、子どもも合わせて約30名の方が
当日参加してくださいました。
ありがとうございました！



03

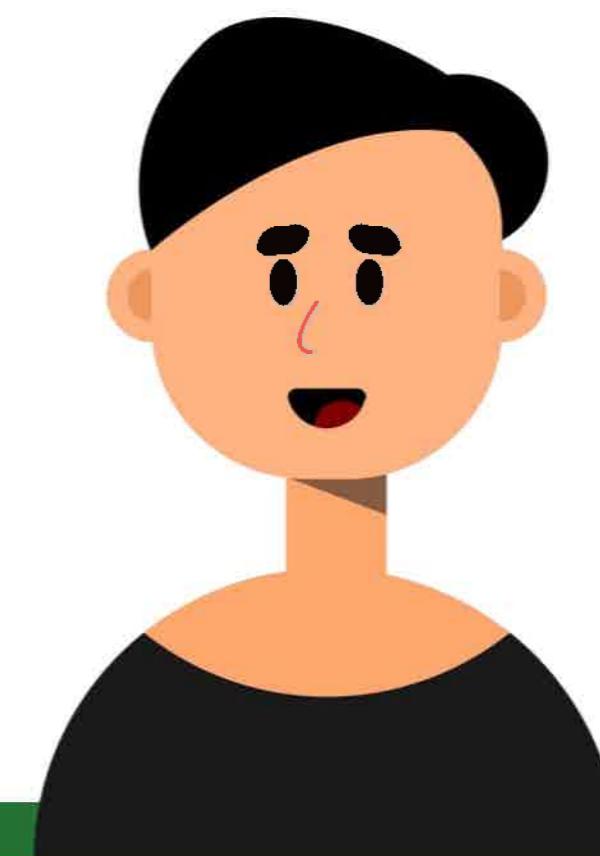
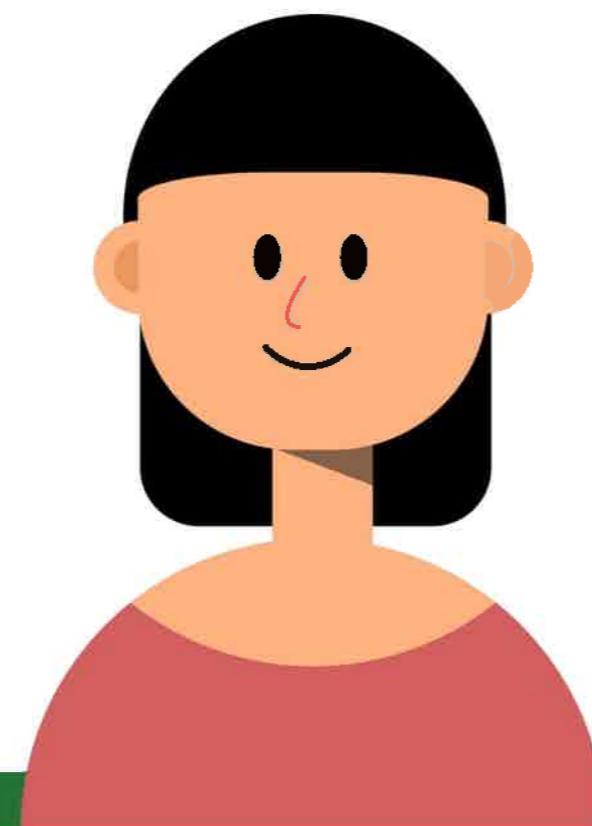
参加者の声

焚き火でスモアを作るのはなかなかできない体験だったので、子どもたちにとっても貴重な体験になりました。

普段体験させてあげることができない(マッチを使うなど)ことができ、子どもたちもとても楽しそうでした。

子どもたち同士で自然に走り回って遊べていたのがとてもよかったです。帰り道からずっと“また行きたい”ととても楽しかったようです！

終了後、子どもの会話に、“できた！”が多く出て参加して良かったなと思いました。



取り組みから見えたこと

04



04

取り組みから見えたこと

参加しやすい場所

- 火起こしできる場所が少ない
- 屋外のため天気に左右される



活動資金

複数回にわたるイベントの実施や参加者を広く募集する場合には、参加費の徴収や寄付、賛助金を集めなど活動資金の確保が必要



人材

- 体験活動の指導者が必要
- 子どもを見守りながら一緒に活動・運営してくれる協力者が必要



評価・分析

参加した方へのアンケート調査等により、子どもや親の現状やニーズの把握や、活動内容・活動場所の選定など体験活動の評価・分析をすることが必要



04

今後必要だと考える取り組み

イベント実施者(地域団体等)

- ・価値づくり
- ・子どもを参加させる際の親の負担軽減
- ・活動資金を確保するため、賛同と協力が得られるよう、活動の目的や成果等を発信

行政

- ・子どもたちや大人の機運を高める
- ・活動資金の補助
- ・ネットワークの構築など情報の共有ができる仕組みづくり

参加者(家庭)

- ・親が子どもを積極的に体験活動に送りだそう
- ・体験後には子どもたちと活動の内容を共有、親子の交流時間を作る

学校

参加者募集のチラシ配布だけでなく、参加への後押しや積極的な関わり
例)一言添えて配るなど

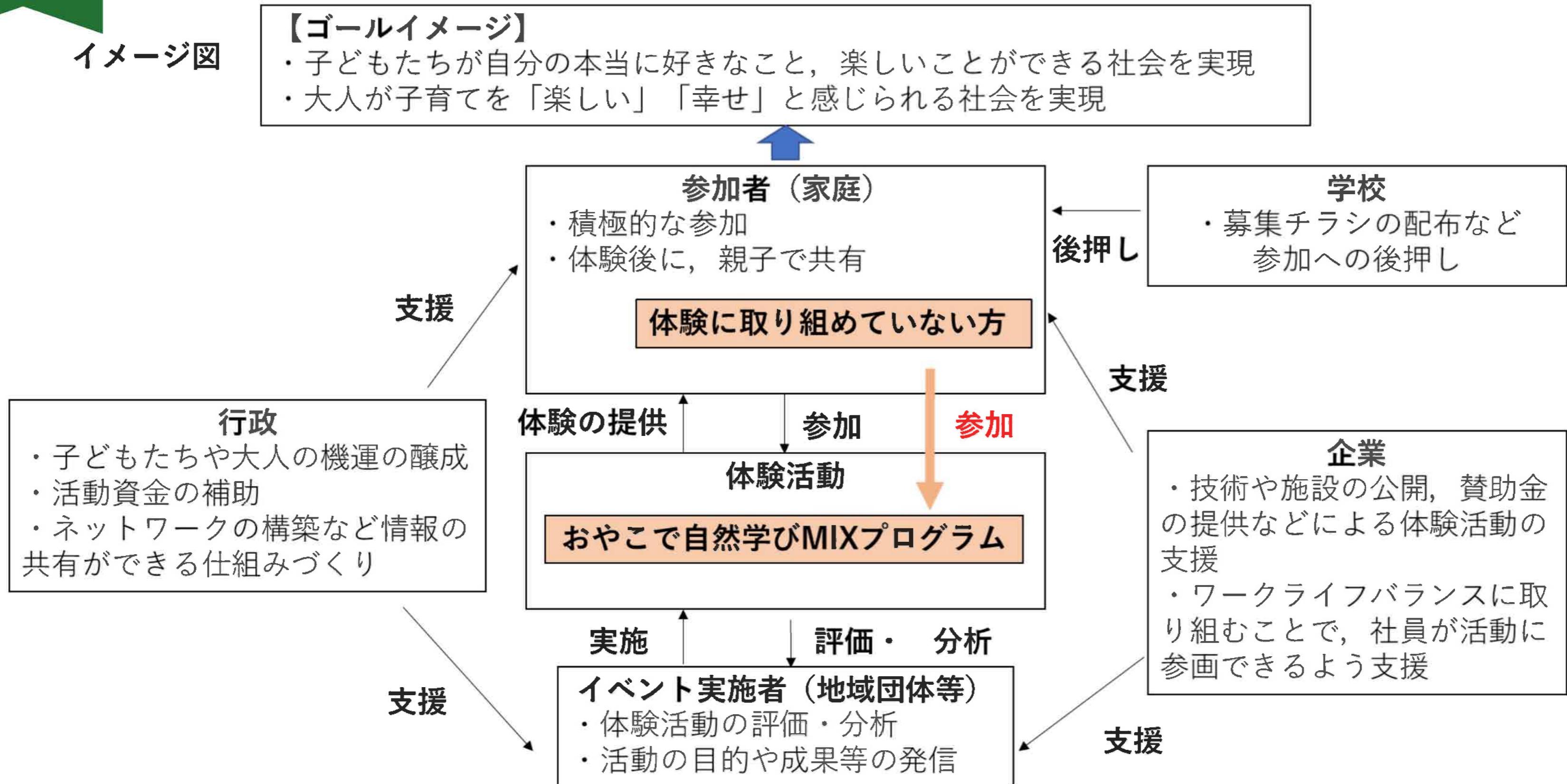
地域の企業等

企業も地域の重要な一員として、地域の子どもたちの育成や地域の活性化に関わっていく

04

今後必要だと考える取り組み（イメージ図）

イメージ図



05

さいごに



05

みやプロに参加して(官民共創について)

行政

信頼感
調整力



民間

柔軟性
専門性



短期間で多くの
子どもたちや大人を笑顔に



05

さいごに

ご協力いただける方募集！

① ゴールイメージに向けて一緒に活動してくれる方

- ・この課題に関心がある方
- ・体験活動の指導者、経験者
- ・子どもたちのサポート（子育て経験者）など

② 支援してくれる方

- ・活動場所（送迎もできるなど）や資金の提供
- ・企業のノウハウや施設の公開など

③ 自社などで実施している体験活動と連携して欲しい方

- ・自然体験の指導者：こばしり、そら
- ・プログラミング体験：キム
- ・広報、資料作成等：ゆかりん
- ・子どものサポート：あいちゃん、ちー、ようこさん



THANK YOU!

ありがとうございました